

情報が世界広げる

全国大会 小川洋子さん講演

神戸



その外の世界で魅力的なものとの出会えるかもしれない。情報と接したときに働かせられる

想像力を若い方には育ててもらいたい」と話した。「情報で、いのちを守る」と題したパネル討議もあった。ジャーナリストの池上彰氏を司会に、日本フアク

トチェックセンター編集長の古田大輔氏、県立大大学院減災復興政策研究科の阪本真由美教授らが選挙や災害時の情報選択について意見を交わした。

1日は甲南大学（同市東灘区）で教員による公開授業などがある。【山田麻未】

31日に神戸ポートピアホテル（神戸市中央区）で開催した「第30回NIE全国大会神戸大会」では、作家の小川洋子さんが「言葉は人をつなぐ」のテーマで記念講演した。

小川さんは講演で言葉や情報との向き合い方について触れ、「関係の有無、関心の有無だけで情報を切り捨てると世界は狭くなる。



記念講演をする作家の小川洋子さん
＝神戸市中央区の神戸ポートピアホテルで

■NIE全国大会が神戸で開幕

教育現場で新聞を活用する「NIE（教育に新聞を）」の実践報告をする第30回NIE全国大会が31日、神戸市で開幕した。スローガンは「時代を読み解き、いのちを守るNIE」。日本新聞協会の中村史郎会長は開会式で「将来を担う子どもたちには情報氾濫の時代に情報リテラシーを高めてもらう必要がある、新聞の活用はうってつけだ」と強調した。

紙面上に「生徒の興味」

神戸県内教員らが事例報告



「第30回NIE(教育に新聞を)全国大会神戸大会」は最終日の1日、神戸市東灘区の甲南大岡本キャンパスで分科会があった。公開授業や実践発表として県内の教員らが、授業での新聞の活用事例を報告した。

県立播磨南高校(播磨町)は2022年度、生徒らが地域の課題を調査し解決策を探る「地域デザイン類型」を設置。担当教員の矢野聖人さんは、課題に取り組むうえで「生徒らには新聞を読んで普段目にしないニュースに触れさせ、興味・関心の幅を広げるようにしている」と説明。「記事で同年代の高校生が活躍していることを知ると『自分たちにもできるんだ』という理解

につながる」と話した。7月31日からの全国大会には、全国の教育・新聞関係者や一般の1757人が参加した。【花牟礼紀仁】